

2016年7月14日



I B M Watsonテクノロジーを活用した医療ビッグデータ 解析による疾病発症リスク予測・重篤化防止に向けた共同検討の開始 ～ 国民健康寿命の延伸に向けて ～

第一生命保険株式会社（社長：渡邊 光一郎）は、学校法人藤田学園 藤田保健衛生大学（以下、藤田保健衛生大学）、日本アイ・ビー・エム株式会社（以下、日本 I B M）と共同で、国民の健康寿命の延伸への貢献、医療の質の向上を目指し、お互いの持つ保険／医療／I C T各分野における知見・ノウハウを活用しながら、疾病の発症リスクの予測や重篤化を防止する健康改善、治療モデルの構築に向け検討を開始することに合意しました。

共同検討を行う疾患領域として、まずは糖尿病にフォーカスします。糖尿病の症状や治療内容といった医療データは、電子カルテなどに自由記述されて蓄積されているケースが多く、従来の技術ではデータベース化が困難でした。

本共同検討においては日本 I B Mが推進している Watson テクノロジーのヘルスケア領域での活用により、膨大な様々な形式のデータをデータベース化し、コグニティブ技術*1により解析、予測することで疾病の予防や重篤化の防止に活用できるようになります。具体的には、糖尿病患者の症状・既往歴・生活習慣・治療プロセスの違いなどによる重篤化リスクを解析・予測し、今後の効果的な治療や合併症併発の抑制に役立てていきます。

全世界における糖尿病患者は4億1,500万人にのぼり、2040年までには6億4,200万人にまで増加することが予想されています*2。日本でも既に316万6,000人の糖尿病患者がおり*3、年間1兆2,076億円の医療費がかかっています*4。糖尿病に罹患することで、腎症や網膜症、神経障害、脳梗塞などといった合併症を引き起こすリスクも高くなるため、糖尿病発症や重篤化のリスクを正確に予測し、適切なタイミングで適切な健康指導や治療を実施できるようになることは、国民の健康寿命の延伸、医療費抑制の観点からも大変重要な取組みとなります。

本共同検討において、第一生命は、データ解析結果および予測評価システムを保険事業や関連サービスへ応用していくことを検討していきます。具体的には、生活習慣病の予防および改善などお客さまの健康増進に向けたサービスの提供、より高度なリスク管理基準を設けることによる保険引受基準の拡大、新たな保険商品の開発などを目指していきます。

第一生命では保険ビジネス（Insurance）とテクノロジー（Technology）の両面から生命保険事業独自

のイノベーションを創出する取組みを“InsTech”（インステック）と銘打ち、最優先の戦略課題としてグループ全体で推進しており、InsTech の推進に向けては、様々なパートナーシップ構築、他業態とのコラボレーションを追及しており、本共同検討はその取組みの一環です。

第一生命グループは、お客さまの一生涯に寄り添った「確かな安心」と「充実した健康サポート」のご提供を更に強化すべく、生命保険事業のイノベーション創出に向けた取組みを進めていきます。

以上

*1 コグニティブ技術とは、膨大なデータを理解して大規模に学習し、人と自然にかかわり合い意志決定を支援する新たなコンピュータ・システムで、IBM Watson はその中核となる技術を提供するプラットフォームです。

*2 “Diabetes Atlas”, IDF, 2015

*3 「平成 26 年(2014) 患者調査の概況」, 厚生労働省

*4 「平成 25 年度 国民医療費の概況」, 厚生労働省

*IBM、IBM ロゴ、ibm.com、IBM Watson は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。